

故 松本 常男先生を偲んで

日時：令和4年7月28日(木) ご逝去



井汲 憲治(群馬県)



イタリアの学会にて



乙部先生、鈴木元学会会長とともに

日本インプラント臨床研究会の名誉会員でいらした故松本 常男先生のご霊前に、会員を代表して謹んでお別れとお礼の言葉を申し上げます。

仕事をすべてお孫様に託し、ご自宅において悠々自適にお過ごしになられていると伺っておりましたが、7月に松本先生の突然の訃報に接し悲しい気持ちでいっぱいです。

先生は昭和27年3月に日本歯科医学専門学校(現日本歯科大学)を卒業後、昭和31年8月に伊勢崎歯科医師会に入会され、昭和55年4月より昭和59年3月まで同専務理事、昭和59年4月より昭和63年3月まで同副会長、昭和63年4月より平成12年3月まで同会長を務められました。また、群馬県歯科医師会におきましては、群馬県歯科医師連盟会長の要職に長年就かれておりました。

一方、日本口腔インプラント学会においては、第12回日本口腔インプラント学会関東甲信越支部学術大会を、大会長として前橋市において開催されました。また、長年の功績が認められ学会特別賞を受賞されております。

インプラント治療が認知されている現在からは考えられませんが、1980年代以前にはインプラント治療はとても異端視されていました。また、歯科医師

会においても同様であり、インプラント治療を行う歯科医師は大なり小なり変わり者と思われていたといっていると思います。そんな中であって、松本先生は歯科医師会の要職に在りながら、1970年代より信念をもってインプラント治療に取り組まれていらっしゃいました。歯科医師会とインプラント治療の両方においてリーダーシップを発揮されたことは、全国のインプラント界においても貴重なご存在であり、それも、松本先生のお気遣いや思いやりのあるお人柄に依るところであったと思っております。

私の父とは、ともに昭和一桁世代でとても気が合い、仕事以外においても生涯を通しての親友としてお付き合いをさせていただいておりました。父が企画した国内旅行やパソコン教室、そして音楽コンサートなども、一緒になって盛り上げていただきました。国内学会はもとより、1980年代はAAID(アメリカ歯科インプラント学会)やアジアの学会には、毎年のように一緒に参加されていたいらっしゃいました。

先生は私を含め、若輩の先生との対話に積極的に参加し、インプラント治療に対して熱心に耳を傾け、時には相談事にも親身になって乗っていただきました。お酒もよく召し上がり、宴席の時には知識と経験談を楽しくお話して下さいました。

そんな松本先生ともうお話しが出来ないことはとても悲しいですが、大好きだったインプラント臨床研究会を天国から暖かく見守って下さっていると思っております。

ここに、先生のご冥福をお祈り申し上げまして、追悼の言葉といたします。

合 掌